

平成22年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

| | | | |
|----------------------------------|---|-----------------|-------------|
| 1 学校名 | みやき町立三根中学校 | | |
| 2 所在地 | 佐賀県三養基郡みやき町大字市武1661番地 | | |
| 3 校長名 | 川崎 健二 | | |
| 4 学級数 児童生徒数 | 6 学級 196 人 | 5 実施学年 児童生徒数 | 1 年 63 人 |
| 6 取組のねらい | <ul style="list-style-type: none"> 性別や年齢・障害の有無にかかわらず安全に生活できるのか、について日常生活をふりかえりすることでユニバーサルデザインについて知り、「共生」についても考えさせる。 | | |
| 7 取組の実際（写真等を入れ具体的な様子がわかるようにすること） | <ul style="list-style-type: none"> 1年生の家庭科の授業において、「ユニバーサルデザイン」について学習した。 まず、家の中における危険な箇所についてグループ討議をし、危険個所を各自ださせることで、安全と思っていた家について考えた。 安全にするためにはどのような設計や工夫をすればいいのか、について「家の間取り」をかかせお互いにチェックさせたり、アイデアをださせることで「ユニバーサルデザイン」についての認識を高めることができた。 次に、マジックテープを使った脱ぎ着が簡単な衣類を紹介し、高齢者や障害のある方にとって「優しく易しい衣類」について知り、高齢者や障害者の方の気持ちになって考えた。 | | |
| 8 取組の成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> 普段の生活では何不自由なく生活している中学生にとって、考えさせる教材であったと思われる。3世代家族が多い本校にとって、祖父や祖母を気遣う優しさや、「家」を家族全員がこちよく生活するための物質的な優しさ、広くはすべての人とのお互いの優しさ、「共生」について考えることができた。 今後は、個々の生徒へ「ユニバーサルデザイン」についての認識の定着をはかっていくのが課題だと思われる。 | | |

※必要に応じて、適宜、枠を広げ作成すること